

# 玉音放送

(現代仮名遣いによる読み方)

朕深く世界の<sup>ちんふか</sup>大勢と<sup>せかい</sup>帝国の<sup>たいせい</sup>現状とに<sup>ていこく</sup>鑑み<sup>げんじょう</sup>非常の<sup>かんが</sup>措置を<sup>ひじょう</sup>以って<sup>そち</sup>時局を<sup>も</sup>収拾せんと<sup>しゅうしゅう</sup>欲し<sup>ほ</sup>ここに<sup>ちゅうりよう</sup>忠良なる<sup>なんじしんみん</sup>汝臣民に<sup>つ</sup>告ぐ

朕は<sup>ちん</sup>帝国政府をして<sup>ていこくせいふ</sup>米英支蘇四国に<sup>べいえいしそしこく</sup>対し<sup>たい</sup>その<sup>きやうどうせんげん</sup>共同宣言を受諾する<sup>じゅだく</sup>旨<sup>おね</sup>通告せしめたり<sup>つうこく</sup>

そもそも<sup>ていこくしんみん</sup>帝国臣民の<sup>こうねい</sup>康寧をはかり<sup>ばんほうきやうえい</sup>万邦共栄の<sup>たの</sup>楽しみを<sup>とも</sup>共にするは<sup>こころ</sup>皇祖<sup>こうそ</sup>皇宗の<sup>いはん</sup>遺範にして<sup>ちん</sup>朕の<sup>けんけん</sup>拳々措かざる<sup>ところ</sup>所

さきに<sup>べいえい</sup>米英二国に<sup>せんせん</sup>宣戦せる<sup>ゆえん</sup>所以も<sup>じつ</sup>また<sup>ていこく</sup>実に<sup>じそん</sup>帝国の<sup>どうあ</sup>自存と<sup>あんてい</sup>東亜の<sup>ちん</sup>安定と<sup>しよき</sup>を<sup>い</sup>庶幾するに<sup>たこく</sup>出で<sup>しゅけん</sup>他国の<sup>はい</sup>主権を<sup>りやうど</sup>排し<sup>おか</sup>領土を<sup>ごと</sup>侵すが<sup>ちん</sup>如きは<sup>ちん</sup>もとより<sup>ちん</sup>朕が<sup>し</sup>志にあらず

然るに<sup>しよき</sup>交戦既に<sup>しさい</sup>四歳を<sup>けみ</sup>閲し<sup>ちん</sup>朕が<sup>りくかいしやうへい</sup>陸海将兵の<sup>ゆうせん</sup>勇戦<sup>ちん</sup>朕が<sup>ひやくりやうゆうし</sup>百僚有司の<sup>れい</sup>励<sup>せい</sup>精<sup>ちん</sup>朕が一億衆<sup>いちおくしゅうしよ</sup>庶の<sup>ほうこう</sup>奉公<sup>おのおのさいぜん</sup>各々<sup>つ</sup>最善を<sup>かかわ</sup>尽くせるに<sup>せんきよくかなら</sup>拘らず<sup>せんきよくかなら</sup>戦局<sup>せんきよくかなら</sup>必ずし<sup>こうてん</sup>も<sup>こうてん</sup>好転せず

世界の<sup>せかい</sup>大勢<sup>たいせい</sup>また<sup>われ</sup>我に<sup>り</sup>利あらず<sup>り</sup>しかのみならず<sup>てき</sup>敵は<sup>あら</sup>新たに<sup>ざんぎやく</sup>残虐なる<sup>ばくだん</sup>爆弾を<sup>しやう</sup>使用して<sup>むこ</sup>しきりに<sup>むこ</sup>無辜を<sup>むこ</sup>殺傷し<sup>さつしやう</sup>惨害の<sup>さんがい</sup>及ぶ<sup>およ</sup>ところ<sup>しん</sup>真に<sup>はか</sup>測るべからざる<sup>いた</sup>に至る

しかも<sup>こうせん</sup>なお<sup>けいぞく</sup>交戦を<sup>つひ</sup>継続せんか<sup>わ</sup>遂に<sup>みんぞく</sup>我が<sup>めつぼう</sup>民族の<sup>しやうらい</sup>滅亡を<sup>しやうらい</sup>招来するのみならず<sup>ひい</sup>延て<sup>じんるい</sup>人類の<sup>ぶんめい</sup>文明をも<sup>はきやく</sup>破却すべし

斯かくの如ごとくんば 朕ちん何なにを以もつてか 億兆おくちようの赤子せきしを保ほし 皇祖こうそ皇宗こうそうの神靈しんれいに謝しゃせんや

是これ 朕ちんが 帝てい国こく政府せいふをして 共きよう同どう宣せん言げんに 応おうせしむるに 至いたれる所以ゆえんなり

朕ちんは 帝てい国こくと 共ともに 終始しゅうし東とう亜あの 解かい放ほうに 協きよう力りきせる 諸盟邦しよめいほうに 対たいし 遺い憾かんの 意いを 表ひようせざるを得えず

帝てい国こく臣しん民みんにして 戰陣せんじんに 死しし 職域しよくいきに 殉じゆんじ 非命ひめいに 倒たおれたる者もの及び 其その 遺族いぞくに 想おもいを 致いたせば 五内ごない為ために 裂さく

且かつ 戰傷せんしやうを負おい 災禍さいかを 被こうむり 家業かぎやうを 失うしないたる者もの 厚生こうせいに至いたりては 朕ちんの 深ふかく 軫念しんねんする 所ところなり

思おもうに 今こん後ご帝てい国こくの 受うくべき 苦難くなんは もとより 尋常じんじやうにあらず 汝臣民なんじしんみんの 衷情ちゆうじやうも 朕ちんよく 是れを知る

然しかれども 朕ちんは 時運じうんの 赴おもむく所ところ 堪たえ難がたきを 堪たへ 忍しのび難がたきを 忍しのび 以もつて 万世ばんせいの 為ために 太たい平へいを 開ひらかんと 欲ほつす

朕ちんは 此ここに 国体こくたいを 護持ごぢし 得えて 忠良ちゆうりやうなる 汝臣民なんじしんみんの 赤誠せきせいに 信倚しんいし 常つねに 汝臣民なんじしんみんと 共ともに 在あり

もし 其れ 情じやうの 激げきする 所ところ 濫みだりに 事端じたんを 滋しげくし 或あるいは 同どう胞ほう排擠はいさい互たがいに 時局じぎよくを 乱みだり 為ために 大だい道どうを 誤あやまり 信義しんぎを 世せ界かいに 失うしのうが 如ごときは 朕ちん最もも 之これ

を 戒いましむ

宜よろしく 拳国一家きよこくいつか 子孫相伝しそんあいつたえ かたぐ 神州しんしゆうの 不滅ふめつを 信しんじ 任重にんおもくして 道みち遠とおきを 念おもい

総力を将来の建設に傾け道義を篤くし志操を堅くし誓って国体の  
精華を發揚し世界の進運に後れざらんことを期すべし

汝臣民それ克く朕が意を体せよ

御名 御璽

昭和二十年八月十四日